



編集発行/日本大道芸・大道芸の会 光田 憲雄

(daidoge@kib.biglobe.ne.jp) http:// daidougei.secsaa.net

見所 風俗 信濃

信濃風俗所見

これまで何度も紹介したように『風俗画報』誌は明治二十二年(一八九九)から大正五年(一九一六)まで二十七年間刊行された我が国最初のグラフィック雑誌(当初石版摺のち写真版)である。全五一八冊。これに多分著者編者が興味を持った地域なのである。時々各地域の風俗を掲載している本紙でも何度か転載したが、この第四百二二号(明治四十二年十一月)に本文を四百三十三号(同十二月)に挿絵「信濃風俗所見」を載せている。当時の信濃風俗の一端が解るので紹介する。

○学生行商は、商業学校の学 ものにて、単独なり在り、生と応実習のため行商をなす 或は兩三名にて同行するあ

り。而して其の行商するの爲か、余が原籍地なる〇府を獲取りする由。耳に余幼状態はに品を所持するもの 地方にては八九年前には百少の時に耳にせし事ありしとありて一二品の者は 管署 個三銭五厘内外にて、百に 其、只単に五合内外入りの小袋を学校等に立ち寄るのみなれ 対する十の割合なるが、其 毎に之を左手に所持する袋に入れ、袋に満ちたる時は腰部に巻きある大袋に入れ更(換)及ぶ町内を行商す。而しての箱の中に一合瓶を入れ、ち帰り、正午再び出でて其の行商するの果下一般は 担ぎ廻るものにて一合三銭 景まで取り居るが普通なれども夜明け早々は寒さの爲いかなるやを知らざれども、内外なり。

地方には 車にて曳き行き、に巻きある大袋に入れ更(換)及ぶ町内を行商す。而しての箱の中に一合瓶を入れ、ち帰り、正午再び出でて其の行商するの果下一般は 担ぎ廻るものにて一合三銭 景まで取り居るが普通なれども夜明け早々は寒さの爲いかなるやを知らざれども、内外なり。

当地なる佐久郡の如きは有 〇蠟取りは駿河国にては網 自在に飛び廻らぬ故、獲物多き由にて、随分朝早く出るもの多し。其の取り来たりし蠟は中以上のもは自家用の副食物となすものあり。其の他のものは一竹五銭以上十五銭以下位にて販売すなり。

明治には新商売も出た 理学の幽霊売



堀取

蠟取り

帽子洗濯屋

清水暗風『街の姿』

